

応用生物科学科を卒業した先輩へのインタビュー

応用生物科学科の良さや入学を志望する高校生に向けたメッセージとして、2024 年度に修了／卒業（予定）の大学院生と学部 4 年次の先輩にインタビューした内容をまとめています。

インタビューの内容

大学院生（修士）；

- （就職予定）企業名・職種
- 上記企業の志望理由
- 本研究科で得たこと・印象に残ったこと（研究について；研究室、学会など研究活動に関わること）

学部生

- （就職予定）企業名・職種
- 上記企業の志望理由
- 本学科で得たこと・印象に残ったこと（授業・学生実験・卒論/修論研究・サークル活動等）
- 応用生物科学科の特徴的な点

掲載者リスト

博士前期課程 2 年次	風見菜月	就職先・職種：ヤマダイ株式会社・技術系総合職
博士前期過程 2 年次	高橋りりか	就職先・職種：株式会社 新日本科学・前臨床研究職
学部 4 年次	一箭華倫	就職先・職種：サトウ食品・商品開発職
学部 4 年次	神谷空	就職先・職種：神戸天然物化学・研究・開発職
学部 4 年次	丹澤壮太	就職先・職種：山梨銘醸・製造
学部 4 年次	袴田大河	就職先・職種：ニプロファーマ株式会社・品質管理
学部 4 年次	真鍋千優	進学先：秋田県立大学大学院 生物資源科学研究科

氏名：風見菜月

生物資源科学部 応用生物科学科 2022 年度卒業／大学院生物資源科学研究科
生物資源科学専攻 博士前期課程 2024 年度修了予定

就職（予定）先・職種：ヤマダイ株式会社・技術系総合職

高校時代から生物の授業が好きで、もっと深く学びたいと思い秋田県立大学に進学しました。本学は学生の人数に対する教員の比率が高く、先生と深くディスカッションしながら研究を進められるのが良い点だと思いました。研究機器もかなり充実しており、高価な分析機器でも自ら操作し、結果を得られることが魅力的だと感じました。修士 1 年生のときには、国際交流制度を利用して、カナダのアルバータ大学を訪問しました。初の海外渡航で不安と楽しみが入り混じった状況でしたが、引率の先生や国際交流担当の職員さんのサポートが手厚く、安心して臨むことができました。現地では自身も使用している電子顕微鏡についてさらに知識を深めることができ、本学にはない機器も見学することができ、刺激的な体験となりました。講義を通して、食品に関する栄養学的な面や、文化的な側面についても学びました。さらに、微生物学を学ぶことで安全性についても知識を習得することができました。以上の経験を活かせると考え、食品業界を中心に就職活動をした結果、ヤマダイ株式会社に入社することができました。将来、安全で美味しい食品を皆様にお届けしたいと考えています。

氏名：高橋りりか

生物資源科学部 応用生物科学科 2022 年度卒業／大学院生物資源科学研究科
生物資源科学専攻 博士前期課程 2024 年度修了予定

就職（予定）先・職種：株式会社 新日本科学・前臨床研究職

私は、中学生の頃から人々の健康に貢献する仕事がしたいと考えていたため、動物の分子細胞生物学を学ぶことができる、秋田県立大学応用生物資源科学科に進学しました。そこで癌転移を研究している村田教授と出会い、研究の面白さと難しさを学びました。卒業研究では新規プロジェクトを任せてもらったため、さらに研究を深めたいと思い、本大学院に進学しました。大学院ではマウスを用いて人工的に肺に癌細胞を転移させる実験を行い、細胞を扱う実験と比較して実験手法の習得が難しいことを痛感しました。また、研究の方向性を村田教授と綿密にディスカッションしながら進められたことは非常に心強かったです。

マウスを扱う実験を通して、医薬品の研究開発に携わりたいという気持ちが強くなり、動物や細胞を用いて新薬の安全性や有効性を研究する、新日本科学へ就職することを決意しました。

学部から修士まで支えてくださった先生方、同期、先輩や後輩に感謝しています。

氏名：一箭華倫

生物資源科学部 応用生物科学科 2024 年度卒業予定

就職（予定）先・職種：サトウ食品・商品開発職

私は大学受験の時点で生物学について学びたいということは決めていましたが、その中でどのような分野について専念するかは大学で幅広く学んだ後に選びたかったので、応用生物科学科を選びました。本学科での『学び』を通して、私は自身が食品について勉強することが特に興味を持って楽しむことが出来ることに気づけました。また卒業研究ではパン酵母について研究し、実験の結果を先生と話し合いながら考察することにやりがいを感じることに気づき、この考察の作業が商品開発の過程に似ていると考え、商品開発職に興味を持ちました。就職先は出身地の新潟でお米に関わる企業で大学での学びを活かしたいと思い、最終的にサトウ食品の商品開発職で内定をいただき、入社を決めました。

私が大学生活で沢山の経験ができたのは、本学の先生と生徒の距離が近いからだと思います。学科内の人数が少ないことが、先生が生徒一人ひとりを把握できることに繋がり、また、研究室の配属人数が少ないことが学生それぞれの特徴に合わせて最大限の学びを経験できることに繋がっていると思います。

氏名：神谷 空

生物資源科学部 応用生物科学科 2024 年度卒業予定

就職（予定）先・職種：神戸天然物株式会社・研究・開発職

幼い頃から化学と生物が好きだった私は、科学を楽しめることを軸に就職活動を行い、神戸天然物化学に就職を決めました。社長が掲げる「サイエンスを楽しむ」という考えが社員にも浸透しており、*in vitro* 実験の知識や経験を活かせると感じたからです。社員同士の仲の良さや職場の雰囲気も魅力的でした。

応用生物科学科では、微生物・植物・動物・食品・醸造といった幅広い分野を学ぶことができます。授業で得た知識を学生実験で実践し、多様な生体試料や食品試料を扱うことで実験スキルを磨きました。また醸造実験などの応用生物科学科でしか行えない実験は貴重な経験となりました。卒業研究では、予想外の結果に悩みながらも問題解決能力を養い、結果が出た時の達成感を得ました。また、学科の仲間との充実した日々やサークル活動を通じて、科学の面白さや大学生活の楽しさを実感しました。

生物や化学に興味がある方は、応用生物科学科で自分の理想や将来の目標を見つけられるでしょう。

氏名：丹澤壯太

生物資源科学部 応用生物科学科 2024 年度卒業予定

就職（予定）先・職種：山梨銘醸株式会社・製造職

高校生の時から醸造学（特にお酒の生産）に興味があり、本学に入学しました。秋田県立大学での学生生活を過ごしていく中で、究プロジェクト（日本酒の製造販売を行っている本学サークル活動）や日本酒を作る実習を通して日本酒の面白さや奥深さに魅了されてしまい、地元（出身地）の酒蔵への就職を決めました。

三年次から参加した究プロジェクトでは若い世代が飲みたいと感じる日本酒を目指し、近くの酒蔵と学生が共同で日本酒を造りました。蒸したお米に麹菌を振る作業や醪を棒でつく作業をさせていただいたのは貴重な体験でした。また、出来立ての日本酒を飲んだ時の感動は今でも忘れられません。

醸造学に関する講義や実験は応用生物科学科にしかない特徴です。二年次の学生実験では一人ひとりが自身の清酒を仕込みます。普段なんとなく飲んでいた日本酒を科学的に考えることで日本酒の奥深さを知ることができました。

氏名：袴田大河

生物資源科学部 応用生物科学科 2024 年度卒業予定

就職（予定）先・職種：ニプロファーマ株式会社・品質管理

私は医療用医薬品の製造を行うニプロファーマ株式会社に就職予定です。大学の実験実習で培った基礎的な実験技術や研究室で学んだ微生物の取り扱いの知識を活かせる仕事をしたいと思っていました。また、ニプロファーマ社のインターンシップで、患者だけでなく医療従事者にも貢献できる注射剤を始めとした様々な医薬品の製造に関われることに魅力を感じ、志望いたしました。

私が所属する応用生物科学科は、動物・植物・微生物と幅広い生命を対象としたバイオテクノロジー分野、及び食品や醸造の分野について学べるのが特徴の学科です。その中でも特に私の印象に残っているのは、2年次から始まる実験実習の「応用生物科学実験」です。分子生物学・細胞生物学・微生物学・醸造学に関する様々な実験を通して、幅広い分野の実験の基礎技術と知識を学ぶことができました。この経験が、医療や食品といった分野で働く際に、大いに役に立つと私は考えています。

氏名：真鍋千優

生物資源科学部 応用生物科学科 2024 年度卒業予定

進学（予定）先：秋田県立大学大学院 生物資源科学研究科 生物資源科学専攻 博士前期課程

高校時代から生物に興味を持ち、将来は漠然と『生物を利活用する研究ができる職』を目指し本学に入学しました。本学は3年次の夏まで微生物・植物・動物・食品醸造の分野について学び、その後、卒業研究に専念する研究室を決めます。私は講義／実習で学んだ分子生物学、遺伝子工学から、医薬系に興味を持ち動物制御グループの研究室にお世話になりました。現在は標的とするタンパク質（遺伝子）を欠損したマウスを利用して、ホルモンの分泌制御の研究を行っており、研究テーマをさらに深めるために本学大学院に進学を決めました。

大学時代の良き思い出としては、大学サークルの『竿燈会』で4年間、秋田の文化を学ぶとともに多くの友人に囲まれて学生生活を謳歌した経験です。秋田には五穀豊穡を願う行事として長い歴史を持つ『竿燈まつり』があります。本学竿燈会は毎年この祭りに参加しており、技を競う妙技会でも多くの賞を獲得しております。この竿燈会で出会った友人は学科の同期生とともに、私にとってかけがえのない存在です。